



# グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです!

File No.13



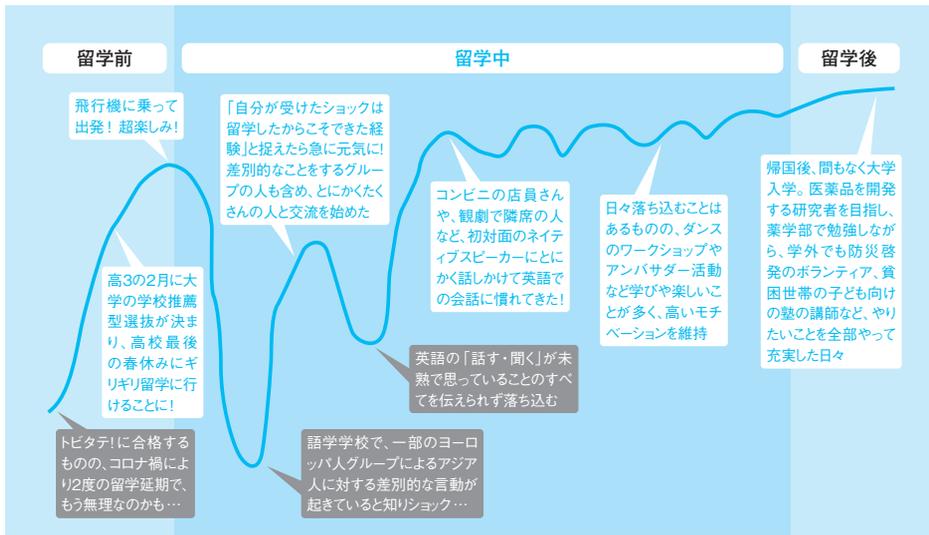
北村 藍さん (20歳)  
菊里高校 (愛知・市立) 卒業

高1でトビタテ!に応募し合格するもコロナ禍で2度延期に。諦めていた高3の卒業間近に留学できることになり、卒業式の翌日に渡米。帰国後すぐに大学の入学式を迎えた。現在は、名古屋市立大学薬学部で医薬品の研究者を目指して勉強中。

## 留学を諦めかけた自分を先生が励まし続けてくれた

高1の家庭科で「家族の多様化」の授業を受けたときに、異なる意見に否定的で固定的な価値観の自分に気づきました。多様な価値を認められる人になりたいと思い、多様な人々が集まるニューヨークに留学を決意。学校で説明会があったトビタテ!に応募しましたが、コロナ禍で留学は2回も延期に。そのときに母校のトビタテ!担当の先生が事務局と密に連絡を取ってくれたり、「チャンスはあるよ!」と励まし続けてくれたりしたことがとてもありがたかったです。

留学先の語学学校で、ヨーロッパ人グループがアジア人に心ない言動をしていてショックを受けました。でも私は逆境に燃えるタイプ。そのグループの一人ひとりに声をかけてみると、悪いという自覚がなく集団心理でやっていたのです。嫌な思いをそのままにせず、多様性を共有したいと言葉にして対話すれば伝わりと確信。語学以上に、自分から行動することが大切であると学べた貴重な経験となりました。



### DATA

- 【留学した年齢】18歳
- 【留学した国】アメリカ
- 【留学期間】高校3年の3月から3週間
- 【留学内容】語学と多様性を学ぶプログラム
- 【留学しようとおもったキッカケ】学校で「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」体験者の先輩による説明会があり、留学が夢から現実になった。
- \*「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



マンハッタンから約45分に位置する語学学校。担任の先生と2ショット。

語学学校の仲間と観光に。母語が異なるメンバー同士で「嫌なことがあったら必ず言う」「母語をしゃべったら何を言ったか英語で説明する」というルールを決めたら楽しく過ごせて、ルールの大切さに気づく。



語学学校のダンスワークショップでラテンのズンバを教わる。叫びながら踊る楽しさに開眼。



アンバサダー活動で折り紙をレクチャー。英語が苦手でも形と折り方で文化を伝えることができた!

本を読みに頻繁に通っていたニューヨーク公立図書館。建物も素敵。



茶道部の経験を活かし、アンバサダー活動でお茶会を開催。



東の朝ごはんもアメリカっぽい



マンハッタンの新しいランドマークであるサミット・ワン・ヴァンダービルトにも上ってきた!



自由の女神に会いに行くフェリーから見たマンハッタン

